

約束 2022年度卒塾生より

「難しい問題が解きたいって言うんです。」そう言ってお母さんに連れられてきたのが、まだあどけなさの残るMちゃんだった。小6の春のことである。クラスの友達が私立中学受験を目指していて、その子の解く問題に興味をわき、自分も解いてみたいと思うようになったとのことだった。私立中受験ならば当塾の専門外である。その旨を伝えたが、どうやら“私立中受験をしたい”と心から思っているわけではないらしい。迷っているのだ。お母さんにも今のところそのつもりはない。本人が望めば受験させてもいいが、今の時点では純粹に教科書の問題より難しい問題を解きたがっているだけなので、とりあえずこの塾ならどうだろうと、当塾をのぞいてみてくれたということらしかった。それならばと、授業を体験してもらった。

驚いた。私の言葉一つ一つを正確に理解して、それをもとにしっかり解いていく。応用もできる。計算も速くて正確だ。字も綺麗で丁寧。おまけに音読がとても上手で、読み間違いなど一切しない。もちろん視写も正確である。さらに私の指示をしっかりと受け止めて、式の立て方、図の描き方まで言われたとおりにやっている。国語力と理解力、思考力があり、頭の回転の速さもある。音読、視写の正確さから、基礎学力である見る力、書く力も育っていることがわかった。そして何より人が伸びるための大切な要素である“素直さ”も持ち合わせているのだ。「読み」「書き」「そろばん」の基礎力に「思考力」「意欲」「素直さ」を兼ね備えた、非の打ち所のない子だった。あとは指導者がきちんと鍛え、本人に「努力する力」と「根性」があればどこまでも伸びる。私立受験に挑戦するか、公立中学でトップを目指すか、彼女の判断に任せた。

何度か私の授業を受けた後、Mちゃんは「高蔵寺中で先生と1番を目指します。」と言った。力のある子だからこそ、正しく育てなければならない。「こういう子は放っておいてもできるから。」と、よく世間では言われるが、うすっぺらな勉強、ただやり方を覚えさせるような勉強をさせてはいけないのだ。学校のテストができ、オール5であっても、真に実力のない子は世間にくらでもいる。原理からきちんと理解していけるよう指導していくと、Mちゃんはぐんぐん力を伸ばして応えてくれた。小6、中1、中2、中3時のMちゃんの年間数学月例平均点は、98.6、95.6、95.4、93.6である。中2塾生が毎年苦勞する11月数学月例（図形の角度と証明）も満点だった。常に勉強に真摯に取り組み、思考力を磨いた彼女だからこそその結果である。

中3の1月。笑顔で見せてくれた学校の実力テストの成績表。そこには3科、5科ともに1位と印刷されていた。国数社英は満点だった。彼女は今も旭丘高校で力を伸ばし続けている。